

- ① 配本希望部数をご記入のうえ郵送またはFAXにてご連絡をお願いいたします。  
希望部数を優先して配本しておりますので、必ずお申し込み下さい。
- ② 委託期間内返品可 配本後到着の注文書を注文扱いにて出荷させていただきます。
- ③ ★印の図書は特にご注目下さい。平積み頂ければ幸いです。
- ④ 小局ホームページより、「新刊のご案内」最新号がダウンロードできます。

帖合・番線	部数	法政大学出版局 <b>2022年7月上旬配本</b> 定価4620円(本体4200円+税) <b>河合一樹 著</b> <b>大和心と正名</b> 本居宣長の学問観と古代観 ISBN978-4-588-15126-2 C3010 失われた古代日本の心を称揚し、中国文明・中国思想(漢意)に囚われた学者たちの知のあり方を厳しく批判した宣長はなぜ、他ならぬ孔子だけは「よき人」とし、一貫して高く評価しえたのか? 同時代の思想状況や、関連する儒学者・国学者たちの錯綜する言説を精緻に読み解き、『古事記伝』にいたる宣長の学問的営為における名や秩序、文字や歴史意識の問題を客観的に論証する意欲作。 【日本思想史】 ☆関連書: 廖欽彬・伊東貴之・河合一樹・山村奨編著『東アジアにおける哲学の生成と発展』(小局刊)。	A5判上製・326頁
-------	----	---	------------

帖合・番線	部数	法政大学出版局 <b>2022年7月15日配本予定</b> 定価3520円(本体3200円+税) <b>山崎望 編</b> <b>民主主義に未来はあるのか?</b> ISBN978-4-588-60365-5 C3031 ★ アメリカやヨーロッパをはじめ世界各地にポピュリズムが拡がり、中国やロシアでは権威主義体制が強まる現在、民主主義があらためて問われている。自由民主主義は果たして最適な制度なのか、そして持続可能なのだろうか。政治理論、政治思想史、比較政治、国際政治史、社会学の気鋭の研究者10名が、それぞれの視点から民主主義の未来について構想する。 【政治学】 ☆関連書: ダイヤモンド『侵食される民主主義』勁草書房、モンク『民主主義を救え!』岩波書店など。	四六判上製・312頁 《サビエンティア 65》
-------	----	---	----------------------------

帖合・番線	部数	法政大学出版局 <b>2022年7月15日配本予定</b> 定価3520円(本体3200円+税) 四六判上製・368頁+口絵4頁 <b>杉山一夫 著</b> <b>玉ころがし</b> ISBN978-4-588-21881-1 C0320 ★★ 永井荷風、尾崎紅葉、田村松魚、前田河広一郎、広津和郎、林芙美子、谷譲次、川崎長太郎、川端康成……。さまざまな文人たちによって記録された遊技「玉ころがし」とは何か。江戸末期、香具師の露天営業で流行し、「ジャパニーズ・ローリング・ボール」としてアメリカへ伝播し、「スキー・ボール」にかたちを変え今日まで継承される。パチンコ誕生以前に興隆し消えていった幻の遊技の歴史をたどる。 【遊戯史】 ☆関連書: 杉山一夫『パチンコ』(小局刊)、日比嘉高『ジャパニーズ・アメリカ——移民文学・出版文化・収容所』(新曜社)など。	四六判上製・368頁+口絵4頁 《ものと人間の文化史 188》
-------	----	--	------------------------------------

帖合・番線	部数	法政大学出版局 <b>2022年7月22日配本</b> 定価3960(本体3600円+税) 四六判上製・278頁 <b>アイム・ブルスティン/田中正人 訳</b> <b>創られたサン＝キュロット</b> 革命期パリへの眼差し ISBN978-4-588-01145-0 C1310 ★ 貴族の象徴であるキュロット(半ズボン)を履かない庶民がフランス革命の推進力となり、その象徴的なイメージが街路に姿を現す。「黄色いベスト運動」など、現代の反エリート運動の先駆けでもあった民衆の抵抗運動の歴史的分析とともに、革命的暴力の力学と現象学を提示する。激変する世界の中で、多様な社会的当事者たちは如何にして新たなアイデンティティを見出すのか。 【哲学・思想】 ☆関連書: アバンスール『国家に抗するデモクラシー』、ブォナローティ『平等をめざす、パプーアの陰謀』(小局刊)。	四六判上製・278頁 《叢書・ユニベルシタス 1145》
-------	----	--	---------------------------------

帖合・番線	部数	法政大学出版局 <b>2022年8月中旬配本</b> 定価3300(本体3000円+税) 四六判上製・436頁 <b>川村湊 著</b> <b>架橋としての文学</b> 日本・朝鮮文学の交差路 ISBN978-4-588-46019-7 C0095 ★★ 1982年の釜山滞在以降、朝鮮文学や在日文学の批評家としても長年にわたり第一線を歩き続けてきた著者による集大成。植民地支配と差別、〈親日〉の汚名や屈従を強いられた朝鮮の文学者たち(李光洙、張赫宙、李箱ほか多数)の生と、その歴史に並走してきた日本の作家や知識人たちの理解・無理解・葛藤の記憶を、現在の新しい読者に向けて語り直す。文学だけが架けられる橋とは何か? 【日本・朝鮮文学批評】 ☆関連書: 川村湊編集協力『対抗言論』1号&2号。既刊『対抗言論』叢書1号は杉田俊介『神と革命の文芸批評』。	四六判上製・436頁 《対抗言論叢書 2》
-------	----	---	--------------------------

ご担当者様 氏名: [ ] 担当ジャンル: [ ] TEL: [ ]

\* 配本部数等で事前にご連絡する場合がございます。上覧にご担当者様氏名・TELをご記入下さい。  
\* 宛名ラベルの内容に変更がございましたらお知らせ下さい。次回以降訂正致します。